

[サブサハラ・アフリカ諸国で活躍する日本人医師・研究者の連絡会議：
キックオフ・ミーティング]
報告書
(平成 28 年 10 月作成)

【会 期】平成 28 年 (2016)8 月 25 日

【時間帯】AM 9:10 ~ PM 2:00

【会 場】Fortis Suites G.F., Nairobi, Kenya

【言語等】English (日本語通訳あり)、邦人以外の参加も許容 (open meeting)

【参加費】Admission Fee Free

【主 催】(社)アフリカ開発協会 (AFRECO)、千代田区紀尾井町、東京
Voice 03-3511-8911, URL.<http://www.afreco.jp/>

【報告書】サブサハラ・アフリカ諸国で活躍する日本人医師・研究者の連絡網を立ち上げようという企図の会議が平成 28 年 8 月 25 日、ケニア共和国ナイロビ市の Fortis Suites (Ground Floor) で開催された。この企画は、(社)アフリカ開発協会内での討議に於いて、サブサハラ・アフリカ諸国で活躍する日本人医師・医学研究者は 20 名程は list up できるが、それ以上の存在などのデータが無いこと、また個々の医師・研究者間に於いても密接なる連絡はなく、むしろ互いの連絡も薄く夫々が言わば“点”での活動に終止していること、“点”の活動が“線”や“面”で繋がればさらに有機的で有意義な活動になることが予想される、などの意見があったことがその大きな誘因である。平成 28 年 1 月以来、その様な討議をいくつかの政府機関とも協議した上で、ナイロビで初めて開催されるアフリカ開発会議 (TICAD The Vth・平成 28 年 8 月 27~28 日) に合わせて表記のキック・オフ会議が開かれることになった。会議には実際、日本人医師や大学教授などの医学研究者、療養施設開設者、製薬業者、ケニア人医療関係者、など総数 48 名が参加した。

会議では I, II, III, IV のセッションが組まれた。Session I では、当該キックオフ・ミーティング開催に至った現状等、Session II では 8 名の招待演者の講演、Session III では参加者を含む自由討議、Session IV では AFRECO 会長理事含む 3 名の識者によるサマリー発言と将来展望への意見紹介、がとり行われ、その後、全員での写真撮影 (photo shooting) とランチオン討議 (luncheon discussion) に移り、閉会した。Session I, III, IV では日本語討議も許容され AFRECO Staff (事務局長・長谷川仰子) による英語通訳が行われた。

矢野哲朗 AFRECO 会長理事は開会の辞において当該ミーティング開催に至った経緯に言及、馬場久敏・福井大学名誉教授はその医学国際協力の意義についてアナウンスした。次に AFRECO 事務局長から、塩崎恭久・厚生労働大臣と植澤利次・ケニア駐箚特命全権大使から当該ミーティング（参加者）に祝辞とねぎらいが届いていることを英語通訳でアナウンスした。川原尚行医師（ロシナンテス代表理事）はスーダンで地域医療や保健活動を行っている現状を述べ、次いで武居光雄医師（大分・諏訪の杜病院長）はナイロビで診療所（Forest Japan Diagnostic Centre）を開設し、Dream World Healthcare Programme という保健活動を行っている現状を紹介した。市村宏教授（金沢大学）は Kenya Medical Research Institute (KEMRI) において感染症の研究を行っていること、一瀬休生教授（長崎大学熱帯医学研究所）も KEMRI 拠点で行われている熱帯感染症の最近の重要な知見について論述した。KEMRI 拠点の井上真吾博士と戸田みつる研究員（JICA 専門家）は、SATREPS プロジェクトの成果として簡易迅速診断キットの開発、早期警戒システムについて報告した。馬場久敏医師（福井大学名誉教授・整形外科）はウガンダ・マケレレ大学ムラゴ病院において SICOT 外傷医学マケレレ教育センターを開設したこととその経緯、またナイロビ市の公文和子医師は“The Garden of Siloam”での小児障害児療育についての holistic approach の現況を紹介した。また山口保・風に立つライオン基金代表理事も財団の活動につき概説した。次にコーヒー・ブレイクに移った。



図. 積極的な討議を行う参加者 (Fortis Suites, Nairobi にて)

Session III の自由討議では、医療活動を継続するための経費の獲得、グローバル医学教育の将来展望、医療インフラの整備の問題、日本等での広報活動、について活発な討議が行われた（図）。討議は日本語でも可能としたので複雑かつ詳細な意見の部分については AFRECO 事務局長（長谷川仰子）によって英語訳がなされ、邦人以外にも解釈可能とした。サマリー・セッション（Session IV）では森田公一教授（長崎大学熱帯医学研究所長）と片岡貞治教授（早稲田大学国際戦略研究所長）が展望を述べ、矢野哲朗会長が閉会の辞を述べた。その後、ランチオン討議（luncheon discussion）に移って閉会となった。

（文責：SICOT 外傷医学マケレレ教育センター：シニア・アドバイザー
福井大学名誉教授 馬場久敏）